

令和7年度

福祉教育活動報告書



ふだんの



くらしの



しあわせ



社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

令和8年3月発行

はじめに

本書は、この1年間で行われた学校の総合の時間における福祉教育学習の内容をまとめたものです。福祉は、私たちの生活に密接に関わる重要なテーマであり、社会の変化に伴い、その意義や必要性はますます高まっています。特に、少子高齢化の進行、多様な価値観の共存、地域コミュニティの変化など、現代社会のさまざまな課題に対応するためには、福祉教育を通じた理解と実践が不可欠です。

福祉教育とは、単に知識を学ぶことにとどまらず、人と人とのつながりを大切にし、相互理解や共生の精神を育むことを目的とした学びの場です。本書では、携わった社協職員が各学校のイチオシ学習を紹介するとともに、より多くの方々が福祉教育活動に関心を持ち、積極的に取り組むきっかけとなることを願っています。

本書が、福祉教育活動を推進するうえでの一助となり、誰もが安心して暮らせる社会の実現につながることを心より願っております。



学校



社協



みんな

もくじ

イントロダクション

坂井市社会福祉協議会について、「学校×社協」で福祉教育 . . .	1
-----------------------------------	---

みくに

三国南小学校	2
三国北小学校	3
雄島小学校	4
加戸小学校	5
三国西小学校	6
三国中学校	7

まるおか

平章小学校	8
長畝小学校	9
高椋小学校	10
鳴鹿小学校	11
磯部小学校	12
明章小学校	13
丸岡中学校（学校独自の取り組み）	14
丸岡南中学校	15

はるえ

春江小学校	16
春江西小学校	17
大石小学校	18

春江東小学校	19
春江中学校	20

さかい

東十郷小学校	21
大関小学校	22
兵庫小学校	23
木部小学校	24
坂井中学校	25

イントロダクション

坂井市社会福祉協議会について

社会福祉協議会(通称：社協)は、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。

坂井市社協では、「みんなが主役 ふだんの暮らしのしあわせづくり」を目指して、地域で暮らすみなさまのほか、さまざまな福祉関係機関の参加・協力のもと、地域活動をおこなっています。

「学校×社協」で福祉教育

社協では学校での学習の時間で子ども達を対象に地域のなかの多様な立場の人とつながり、学び合う機会づくり(=共育)を目指しています。

福祉(ふくし)をより身近なもの「ふだんの暮らしのしあわせづくり」として考え、学校の先生と一緒に、取り組んでいます。

① 実施依頼

② 打合せ(目標決め)

③ 授業(体験・講座)

④ まとめ・ふりかえり

三国南小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計26名
(1クラス人数 26名)



目的・ねらい

福祉教育を通して、思いやりの心を育てる

令和7年度の実践

実施日	役割	内容
10月22日	★	当事者（視覚障がい）のお話・交流
12月中		ボッチャ体験

ワーカー
イチオシ!

当事者（視覚障がい）のお話・交流



視覚障がいのある当事者の方と盲導犬を招き、お話を伺いました。当事者の生き方や日常生活の様子、盲導犬との暮らしについての話に、子どもたちは興味深そうに耳を傾けていました。また、積極的に質問する姿も見られました。授業では、当事者が日常生活で使用している便利な道具の紹介があり、休み時間には子どもたちが自らその道具に触れて体験する様子が見られました。さらに、当事者や盲導犬との交流の時間も設けられ、子どもたちにとって貴重な学びの機会となりました。



当事者の方のお話を直接聞き、質問や交流を通して当事者への理解が深まった!

先生からの感想

ふくしについて考えることで、社会生活を送るすべての人がよりよい暮らしをするための工夫がなされていることを知りました。視覚に不自由がある方の話を聞き、これから自分たちに何ができるかを考える機会をもつことができました。そして、障がい者や高齢者はもちろん、周りにいるすべての人に対して思いやりの気持ちをもつことの大切さを知ることができました。

三国北小学校

基本情報

クラス数 2クラス
全体人数 計58名
(1クラス人数 29名)



目的・ねらい

福祉体験を通して、相互理解や他者を思いやる気持ちの増長を図る

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
6月11日		当事者団体によるデフバスケットボール体験
7月10日		まち探検（バリアフリー探し）
12月11日	★	当事者（視覚障がい）のお話
3月10日		フライングディスク体験

ワーカー
イチオシ!

当事者（視覚障がい）のお話・交流



盲導犬と暮らす視覚障がいのある当事者をお迎えし、講話を伺いました。当事者からは、普段の生活の様子や盲導犬の役割についてお話いただき、子どもたちは理解を深めることができました。また、実際に使用している便利な生活道具も紹介していただき、子どもたちは興味深そうに耳を傾けていました。さらに、当事者の周りに集まり、当事者や盲導犬と交流する姿も見られました。

当日は当事者の方が徒歩で来校されており、下校時には子どもたちと一緒に帰るという貴重な経験もできました。地域にお住まいの当事者との交流は、自分たちができることや共に暮らすことを身近に感じる、貴重な学びの機会となりました。



当事者を身近な地域で共に暮らす生活者として考えるきっかけ
になった!

先生からの感想

事前学習で盲導犬について情報を集めたり映像を見たりして理解を深めました。実際に話を聞くことができ、子どもたちは当事者のことをより身近に感じる事ができたようです。盲導犬との生活や思い出についての楽しいお話の中で、時折はっとするようなこともお話しいただきました。ただ楽しいだけの体験でなく、子どもたちの意識が変わるような交流会となりました。

雄島小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計41名
(1クラス人数 20名/21名)



目的・ねらい

福祉教育を通して、やさしくあたたかい心を育てる

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月25日		社協によるアイマスク体験
10月 8日		当事者団体によるフライングディスク・陸上（並走）体験
10月29日		当事者（視覚障がい）のお話
11月11日	★	ボランティアグループによる点字体験
12月17日		全校生徒に向けて福祉教育発表会



ボランティアグループによる点字体験



三国点訳グループ（ボランティアグループ）の皆さんを講師にお迎えし、点字体験を行いました。

事前学習や講師の方の説明を通して、子どもたちは点字の規則性に気づき、点字器の使い方を身につけることができました。「点字を打つのが楽しい」と話す子も多く、打つ感触を楽しみながら意欲的に取り組んでいました。さらに、パソコンを使用した点訳や、6点タイプの点字器を体験もを行い、より便利に点字を打つための道具があることを学びました。また、身近な場所や物に点字が多く使われていることを知り、点字が視覚障がいのある方の日常生活を支えていることを理解することができました。



さまざまな道具を使った点字体験や身の回りで点字が活用されていることを知り、自分たちの生活と関連付けて考えるきっかけになった!

先生からの感想

福祉体験では、子どもたちの反応が良く、多くの質問が出るなど、積極的に学ぼうとする姿が見られました。また、相手の立場に寄り添った声かけや行動も見られました。さらに、身近に当事者の方が暮らしていることを知り、自分の家族や日常生活と結び付けて考える子どもの姿も見られ、有意義な学習となりました。

加戸小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計23名
(1クラス人数 23名)



目的・ねらい

「ふくし」について知ることで
福祉教育を通して、思いやりの心を育てる

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
11月18日		社協と地域活動者によるふくしについてのお話
12月12日	★	社協による赤い羽根共同募金の講座
12月中旬		校内での赤い羽根共同募金活動
1月28日		当事者（視覚障がい）のお話
2月6日		当事者団体によるゴールボール体験
2月10日		アイマスク体験／サウンドテーブルテニス体験
3月18日		福祉教育発表会

ワーカー
イチオシ!

赤い羽根共同募金の講座



社協職員が赤い羽根共同募金についての講座を行いました。募金の仕組みや、集められた募金がどのような目的で使われているのかを学び、共同募金が地域で困っている人を支える活動に役立てられていることを知った子どもたちは驚いた様子を見せていました。最後には、三国町で共同募金を活用している団体やイベントを紹介し、身近な地域で活躍するボランティア団体を知るきっかけにもなりました。

講座の学びをもとに、子どもたちは校内での募金活動にも取り組みました。



募金の仕組みを理解することで、主体的な募金活動の実施につながった!

先生からの感想

子どもたち一人ひとりの「知りたい・学びたい」気持ちを引き出しながらふくしについて学習することで、ふくしのさまざまな側面を知ることができました。子どもたちは「できないこと」をマイナスに捉えがちでしたが、道具や環境を工夫したり、支援する人の存在によって「できるようになること」とプラスに捉えられるようになりました。また、大きなハンディキャップを持つ人や弱い立場にある人が、どのようにすればそのらしい生活を送ることができるのかを考える機会となりました。

三国西小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計21名
(1クラス人数 21名)



目的・ねらい

福祉教育を通して、思いやりの心を育てる

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
6月30日		社協によるアイマスク体験
7月 3日		ボランティアグループによる点字体験
10月 2日		当事者（視覚障がい）によるお話
10月14日		当事者団体による車いすバスケット・卓球バレー体験
2月12日	★	社協と当事者（身体障がい）による車いす体験／ 当事者（身体障がい）のお話

ワーカー
イチオシ!

車いす体験と当事者によるお話



身体障がいのある当事者の方をお招きし、車いす体験とお話を伺う学習を行いました。車いす体験では、子どもたちが日頃使っている校内の場所を実際に車いすで移動してみました。「小さな段差でも乗り越えるのが難しい」「洗面所の蛇口に届かない」など、さまざまな気づきがあったようです。一方で、サポートする人の助けや声かけの大切さも実感していました。その後、当事者の方から普段の生活についてお話を伺い、家の中でも道具を工夫しながら、私たちの生活と変わらない生活を送っていることを知りました。



最後には、車の運転や乗り降りの様子を見学しました。車いすをリフトで積み込む場面では、子どもたちから思わず「おー！」という声が上がっていました。



当事者の生活が具体的にイメージでき、自分に何ができるかを考える
きっかけになった!

先生からの感想

「やさしい心をひろげよう」というテーマで、1年間を通して福祉学習に取り組んできました。子どもの意見から出てきたことを中心に、本やインターネットで調べたり、当事者の方から話を聞いたりたくさん学んできました。特に体験を通して学んだことは、インパクトがあったようで、調べても分からなかったことに気づき、新たな問いも生まれるなど、貴重な機会となりました。この学習を通して、相手のことを思いやるやさしさが誰に対しても少しずつ広がってきたと実感しています。

三国中学校

基本情報

クラス数 19クラス
全体人数 計511名
(1クラス人数 約30名)



目的・ねらい

さまざまな活動を通して生徒たちが三国町に関心を高め、地域の一員として一人一人が将来どのようなアプローチで地元
に貢献ができるかについて考えること

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月7日	★	親子で清掃活動
10月～3月		保育園訪問
1月28日		職業講演会
2月中旬		募金活動(赤い羽根共同募金・ユニセフ募金)

ワーカー
イチオシ!

親子で清掃活動



三国中学校では、親子で清掃活動に取り組みました。例年、3年生は三国花火の翌日に三国サンセットビーチで清掃活動を行い、1・2年生は学校内でゴミ拾いや草むしりを行っています。

残念ながら、今年度は天候などの影響により、3年生の海岸清掃は中止となりましたが、学校で清掃に取り組んだ生徒からは、「友だちと一緒に楽しかった」「暑くて大変だった」「ゴミがたくさん落ちていることに気付いた」などの声が聞かれました。それぞれが環境や学校をきれいにする意義について考える機会となり、また、地域の方と一緒に活動することで、地域とのつながりを深める機会にもなりました。



実際に落ちているゴミを目にすることで、
自分たちの身の回りをきれいにしようという意識が高まった!

先生からの感想

三国中学校は地域との関係が深い学校として、地域とのつながりを意識した活動を大切にしています。学校と地域が協力し、連携して生徒の成長に関わり、活動を通して、生徒に地域を大切にする気持ちや、三国町の未来について考える力を養っています。来年度も学校と地域が協力し、三国町の未来を担う生徒を育成していきます。

平章小学校

基本情報

クラス数 2クラス
全体人数 計40名
(1クラス人数 21名/19名)



目的・ねらい

様々な角度からふくしについて考える機会をもつ

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月11日		社協によるふくしについてのお話
9月30日		当事者団体によるポッチャ体験 企業によるフライングディスク体験
12月 3日	★	高齢者との交流会
1月29日		地域学習発表会

ワーカー
イチオシ!

シニアクラブとの交流会



同じ城のまち地区に住むシニアクラブの方々との交流会を実施しました。前半はレクリエーション交流として、ポッチャとワナゲを行いました。子どもたちは最初こそ緊張した様子でしたが、活動が始まると互いに拍手を送り合ったり、驚きの声を上げたりしながら自然に笑顔が広がり、心も体もほぐれる時間となりました。

後半は、「城のまち地区がより暮らしやすくなるには？」をテーマに、輪になって自由に意見交換を行いました。高齢者の方々が日頃感じている課題や、生きがいとして取り組んでいる活動に熱心に耳を傾け、「自分たちにできることは何か」を真剣に考える姿が見られました。



同じ地区での世代を超えた顔の見える関係づくり
「暮らしやすい城のまち」への第一歩になった!

先生からの感想

一連の学習を通じて、子どもたちはふくしについて興味をもち、誰とでもより良く関わりをもとうとする心を育てることができたと思います。地域の人たちとの交流会により、顔の見える関係づくりができたことも大きな成果かと思っています。学習の最後には、自分たちが地域の一員として何ができるのかを考え、子どもたちなりに発表しました。その際にはシニアクラブの方々にも聞いていただき、交流の場としても貴重な時間となりました。

長畝小学校

基本情報

クラス数 2クラス
全体人数 計40名
(1クラス人数 20名)



目的・ねらい

障がいのある方の生活やお年寄りが日常で感じる不自由さを体験を通して学ぶことで、自分にできることを考えられるようになる

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
7月4日		社協によるふくしについてのお話
7月11日	★	当事者（身体障がい）のお話
9月30日		社協による車いす体験・高齢者疑似体験
10月10日		当事者団体によるボッチャ・車いすバスケ体験

ワーカー
イチオシ!

当事者（身体障がい）のお話



長畝小学校の卒業生でもある三反田さんを講師としてお招きし、障がいを負った経緯や現在の生活についてお話を伺いました。

海での事故がきっかけで障がいを負われたことを知り、子どもたちは驚きながらも真剣な表情で耳を傾けていました。講話では、日常生活での工夫や前向きに生活する姿についても具体的に語られ、当事者だからこそ伝わる言葉の重みを子どもたちは強く感じていました。

今回の講話を通して、命の大切さを学ぶとともに、ふくしについて考える貴重なきっかけとなりました。



実体験に基づくお話から、命の大切さやふくしについて考えるきっかけとなった!

先生からの感想

長畝校区を「だれにとってもしあわせな場所」にするために、自分たちができることを考えようというテーマで活動しました。三反田さんのお話を聞いて車いすでの生活の様子を知ったり、自分の住む地域のバリアフリー・バリア探しをして長畝校区バリアフリーマップを作ったりするなどのたくさんの活動を通して、今まで気づかなかった視点で自分たちの地域を見つめ直すことができました。今回学んだことを活かし、みんなの「ふだんのくらしがしあわせになること」を自分ができることから始めていってほしいと願っています。

高椋小学校

基本情報

クラス数 3クラス
全体人数 計 82名
(1クラス人数 27名)



目的・ねらい

人には得意なこと・苦手なことがあること、そして点字や手話を使って生活している人がいることを知り、さまざまな人が安心して豊かに暮らせる町について考えられるようになる

令和7年度の実践

実施日	内容	内容
9月12日	★	専門職による障がい理解のお話
9月30日		当事者団体による手話体験
10月2日		ボランティアグループによる点字体験
10月3日		当事者団体によるフライングディスク体験 当事者（身体障がい）のお話
12月2日		3年生へ向けて福祉教育発表

ワーカー
イチオシ!

障がい理解のお話



発達障がい児者支援センター「スクラム福井」の方を講師にお招きし、障がいや発達の特性について学びました。1学期に取り組んだ「自己理解」（自分の得意なことや苦手なこと）を踏まえ、2学期は「他者理解」として、他の人にも自分と同じように得意さや苦手さがあることを、クイズやゲームを通して楽しく学ぶことができました。その人に合った環境を整えたり、苦手な部分はお互いに助け合ったりすることで補い合えることも理解している様子がみられました。



子どもたちからは「みんなそれぞれ違うのだと分かった」といった感想が聞かれ、新しい気づきを得て、相手の立場で考える視点の広がりが生まれていました。



**自分の得意・苦手の理解が、他者への理解と気づきにつながり、
相手に応じた配慮や環境づくりを考える視点をもつきっかけになった!**

先生からの感想

いろいろな体験を通して、障がいのある方には自分たちが気づいていなかった不便さがあることに気づきました。また、障がいのある方が暮らしやすくなるための道具や設備が、身の回りにたくさんあることも分かりました。さらに、困っている方に対して周りの人からの声かけや助けがとても大切だということに気づき、これからの日常生活に活かしたいという気持ちを持つことができ、思いやりの心が育ちました。

鳴鹿小学校

基本情報

クラス数 1クラス

全体人数 計10名

(1クラス人数 10名)



目的・ねらい

地域の福祉活動実践者との交流や認知症理解の学習、高齢者疑似体験、障がいのある方によるパラスポーツ体験学習など、さまざまな活動を通して、地域福祉や高齢者理解、障がい者理解を深めることでふくしの心を育む

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月27日	★	地域活動者との交流会
11月27日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座
12月4日		社協による高齢者疑似体験
12月15日		当事者団体によるパラスポーツ体験

ワーカー
イチオシ!

地域活動者との交流



町内の地域福祉を推進する団体(まるおか支部社協委員会、鳴鹿地区のシニアクラブ)の活動実践者をお招きし、地域で行われている福祉活動や高齢者の方々の取り組みについてお話を伺いました。

後半の交流会では、子どもたちと地域の大人が向かい合い、交代しながら対話を行いました。地域の素晴らしいところや、鳴鹿地区の将来について、それぞれが考えていることや想いを共有することができ、世代を超えたつながりが生まれる機会となりました。



対話からお互いの想いを知り、つながりをもつきっかけとなった!

先生からの感想

「ふくし」とは何かを基本から学びたいという思いのもと、高齢者が多く、祖父母と同居している子どもも多い鳴鹿地区の実情にあわせ、高齢者への理解を深める学習やパラスポーツに携わる方のお話・体験を実施しました。

学習後には、「動きにくかった。高齢者は大変。」「年をとれば誰でも認知機能が低下する。」「地域の方の想いが聞けてよかった。元気にあいさつしたい。」「今後は、もっと高齢者や地域の方に優しくしたい。」といった子どもたちの声が聞かれ、子どもたちの変化と成長を実感することができました。

磯部小学校

基本情報

クラス数 2クラス

全体人数 計66名

(1クラス人数 32名/34名)

目的・ねらい

「誰もが主役になれる磯部地区を目指して」をテーマに、高齢者や障がいのある人を含む多様な人々の視点に立ち、その人らしい生活について相手の立場で考えることができるようになる

令和7年度の取組み

実施日	イカ	内容
1月～2月		「ふくし」についての調べ学習
1月16日		アイマスク体験
2月5日	★	社協による車いす体験
2月13日		社協による高齢者疑似体験
3月中		当事者団体によるパラスポーツ体験



ワーカ
イチオシ!

社協による車いす体験



車いす体験では、まず全体説明を通して、乗車中の注意点や介助の方法について学びました。その後の実践では、マットなどの障害物の上を走行したり、車いすに座ったままボールを拾ってカゴに入れる活動に挑戦しました。振り返りでは、子どもたちから「相手の気持ちを考えながら行動することが大切だと分かった。」といった意見が聞かれ、体験を通して相手の立場に寄り添う視点が育っていることが感じられました。さらに学びを深めるための事後学習として、学校で車いす利用者の方々について調べ学習を行い、まとめた内容を意欲的に発表する姿も見られました。



体験・振り返り・調べ学習という一連の流れが車いす利用者の生活について、より深く探究しながら理解を深めることにつながった!!

先生からの感想

ふくしについて、初めは「困った人の役に立つこと」というイメージをもっていた子どもたちですが、体験を重ねて、「車いすで床に落ちている物を拾うのは難しい」「おばあちゃんがいつも、膝が痛いと言っていたことが分かった」など、その立場の人と同じ目線で生活を考えられるようになりました。図書やインターネット、動画など、情報を得る手段は豊富ですが、実際に体験することは、さまざまな人の視点に立って考えることのできるとても大切な機会だと改めて感じました。

明章小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計11名
(1クラス人数 11名)



目的・ねらい

地域のさまざまな人と交流し、子どもたちの「地域共生」の心を育む

令和7年度の取組み

実施日	仔杓	内容
7月11日		社協によるふくしについてのお話
9月22日		当事者（視覚障がい）のお話
9月25日		ボランティアグループによる点字体験
10月16日		社協による高齢者疑似体験 地域の高齢者施設について学ぶ
10月23日	★	地域の高齢者施設との交流会
1月21日		当事者団体によるフライングディスク体験



地域の高齢者施設との交流会



交流前学習として、子どもたちは事前に高齢者疑似体験を行い、高齢者の心身の特徴を実感しました。その後、地域の高齢者通所施設「なごみの家」のスタッフから施設紹介を受け、利用者の方々と一緒に楽しめるプログラムを考案しました。作戦会議の結果、ポッチャと輪ゴム飛ばしゲームを実施することになりました。交流会当日は、子どもたちと利用者の混合チームで対戦し、疑似体験での不自由さなどの学びも活かし、子どもたちが自然とサポートに回ったり、互いに励まし合ったりする姿が見られました。



体験での学びが、心のこもった実践へとつながる貴重な機会となりました。



体験で得た気づきを、実際の交流や行動の中でしっかりと発揮し、子どもも大人も福祉の心を共に育てる福祉共育の大きな一歩となった！

先生からの感想

視覚障がいや身体障がいについてのお話を聞く学習を通して、子どもたちが考えている以上に、当事者の方は日常生活を送る上で命にも関わる危険な思いをした経験があったり、思いやりの心に触れて温かい気持ちになったりすることを学ぶことができました。また、地域の高齢者との交流では、相手の立場に立ってみんなが楽しめる遊びを考えることを通して、相手を理解する力を育むことができましたと思います。

丸岡中学校

学校独自の
取り組み

基本情報

クラス数 16 クラス
全体人数 計492名
(1クラス人数 約30名)

目的・ねらい

丸岡町を、すべての世代にとって住みよい町にしていくために、身近なことから主体的に取り組んでいく



令和7年度の取り組み

実施日	仔細	内容
10月11日	★	古城まつりボランティア（地元の飲食店と協力してオリジナルメニューの商品販売、丸岡城でのイベントの実施等）
11月20日 2月下旬	★	町内の保育所に訪問し、丸岡についての自作の絵本を寄付 赤い羽根共同募金

古城まつりボランティア

当校の総合的な学習の時間において、1年次は「丸岡FANS」、2年次は「丸岡LIKERS」そして3年次は、「丸岡LOVERS」という名称で、3年間を通じたふるさと学習を行っています。特に3年生は、古城まつりにて、地元の飲食店と協力してオリジナルのおにぎりの制作・販売を行いました。その他にも、かくれんぼイベントの企画・運営など、地域資源を活かした実践的な学習を行いました。活動後に内容を振り返り、タブレットを用いた報告を行うことでさらに学びを深めました。



保育園訪問（丸岡町内）

丸岡町内の保育園を訪問し、丸岡の歴史を題材にした自作の絵本の寄付を行いました。生徒たちが主体となり、小さな子どもたちにも丸岡の歴史が伝わるよう工夫を凝らしながら絵本の制作に取り組みました。自分たちの学びを形にして地域へ還元する、貴重なアウトプットの機会となりました。

先生からの感想

地元の飲食店と中学生が手を取り合い、老若男女に愛されるおにぎりのメニューを一緒に考え、二種類のおにぎりを古城まつりにて実際に販売しました。慣れない調理や接客に悩みながらも、地域の笑顔に触れる中で、生徒たちの心には「誰かの役に立つ喜び」というふくしの心が芽生えました。様々な世代が食で繋がる温かな時間は、生徒たちを地域の一員として大きく成長させてくれました。

丸岡南中学校

基本情報

クラス数 4クラス（1年生）
全体人数 計110名
（1クラス人数 28名/27名）



目的・ねらい

小学校のときよりも「ふくし」についての理解を深める
「地域共生」をテーマに、地域を支えるさまざまな団体との交流を図り、より地域を知り好きになり、その中で自分たちにできることを考え、次の地域福祉の担い手となることを目指す

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
5月15日	★	ボランティアグループとの交流会
		ボランティアグループや当事者団体による障がい者スポーツ交流会
		障がい者施設によるお話
7月10日		社協による地域福祉のお話/地域活動者によるお話

ワーカー
イチオシ!

ボランティアグループとの交流会



生徒たちと、地域福祉に携わる市内ボランティアグループとの交流会を行いました。当日は、日頃の具体的な活動内容について紹介を受けたほか、生徒たちが実際に活動の一部を体験する貴重な機会となりました。最初は緊張していた生徒たちも、ボランティアの方々の温かい声かけに触れるうちに次第に打ち解け、笑顔で一緒に活動に取り組む姿が見られました。この交流を通して、生徒たちは地域社会における助け合いの大切さを肌で感じ、自分たちにもできることを考えるきっかけを得た様子でした。



地域活動者との温かなつながりに触れ、助け合いの大切さを実感し、自分たちの地域貢献を考える貴重な機会づくりになった!

先生からの感想

一連の地域学習を通して、誰もが幸せに暮らせる社会をつくるために、「困っている人をみかけたとき、自ら行動を起こそう」という意識が生徒の中に育まれました。

その意識のもと、「私たち中学生が地域貢献としてできることは何か」の視点で、それぞれの活動に取り組むことができ、具体的な活動内容を考え、実践に結び付けることができました。

春江小学校

基本情報

クラス数 4クラス
全体人数 計 117名
(1クラス人数 29名/30名)



目的・ねらい

興味のある分野の体験を行う中で、「ふだんのくらしのしあわせ」について考える

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月19日		当事者団体による卓球バレー・車いすバスケ体験
9月30日		ボランティアグループによる点字体験
10月24日	★	当事者（視覚障がい）のお話/社協によるアイマスク体験
11月11日		当事者（聴覚障がい）のお話/当事者団体による手話体験

ワーカ
イチョシ!

当事者のお話・社協によるアイマスク体験



学校の授業で「ふくし」についての調べ学習を行い、1学期末には「ふくし新聞」を作成しました。その過程で、子どもたちから「視覚障がいについてもっと知りたい」という意見が出たため、今回アイマスク体験を実施しました。体験に先立ち、視覚障がいのある方からお話を伺い、日常生活での工夫や苦労、そして喜びなどについて理解を深めることができました。そうした学びを活かし、アイマスク体験では当事者の視点に立ち、相手の立場を自分のこととして想像しながら取り組む姿がみられました。



体験を通して「バリア」を実感し、当事者の暮らしにふれ、より我が事になる学習になった!

先生からの感想

子どもたちは、パラスポーツや点字、手話などの体験をしたり、障がいのある方々と交流したりする中で、周囲の人の手助けや配慮があれば、誰もが元気に生き生きと生活ができることを学びました。また、「ふくし」についての調べ学習や体験活動を通して、思いやりの心をもって生活することの大切さを理解し、自分たちに何ができるかを考えることもできました。

春江西小学校

基本情報

クラス数 2クラス
全体人数 計43名
(1クラス人数21名/22名)



目的・ねらい

子どもたちの自主性を重視した福祉体験学習を行う
体験学習を行う中で、自分のことだけでなく、周りの子のこ
とも考えられるような「思いやりの心」を育む

令和7年度の取組み

実施日	伊が	内容
9月18日		当事者団体によるパラスポーツ体験
10月8日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座
10月22日		ボランティアグループによる点字体験
11月7日	★	社協によるアイマスク体験
11月21日		社協による車いす体験

ワーカ
イチオシ!

社協によるアイマスク体験



視覚障がいのある方が普段どのような生活を送っているのかを知るために、アイマスク体験を実施しました。アイマスクを着けて障害物のある廊下を歩いたり、教室内で教科書に触れたりするなど、視覚に頼らずに行動する体験に取り組みました。体験後には、「真っ暗な状態が不安だった」「障害物の位置を教えてもらえて安心した」などの感想が聞かれ、目が見えない状況で心の支えになるのは、“そばにいる人の声掛け”であることを子どもたちは実感しました。こうした気づきを通して、普段の何気ないコミュニケーションが誰かの安心につながっていることに気づく学習になりました。



「声掛け」を実践し、相手の立場を想像したコミュニケーションの
学びにつながった!

先生からの感想

福祉体験活動を通して、子どもたちは相手の目線に立って行動することの大切さを学ぶことができました。さまざまな体験を重ねる中で、当事者が抱える不安な気持ちや、介助する側に求められる心構えについて心に残った子どもが多かったようです。活動中には、「どうすると相手の不安が軽くなるかな」と考えながら声掛けをする姿が印象的でした。こうした経験を通して、相手の視点で考える心情や思いやりの心が育った一年間だったと思います。

大石小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計24名
(1クラス人数 24名)



目的・ねらい

ふくしや障がいのある方の「暮らし」について理解を深め、自分だけではなく、障がい者や高齢者、身近な家族や友達のことまで考えられる自主性を育てる
学んだことを活かし、相手の立場になって考え、思いやりのある行動につなげる力を身に付ける

令和7年度の取組み

実施日	伊が	内容
10月 8日		当事者（身体障がい）のお話
10月17日		当事者（視覚障がい）のお話
11月 5日		社協によるアイマスク体験
11月19日		当事者団体によるフライングディスク体験
12月 5日	★	高齢者施設との交流会
12月18日		専門職による災害についてのワーク

ワー
カー
イチオシ！

高齢者施設との交流会



同じ地域に住む高齢者の活動的な姿や強みを知るため、高齢者施設との交流会を行いました。事前に施設の特徴や利用者の様子について施設代表者からお話を伺い、交流に臨みました。当日は、自己紹介や子どもたちが考えた遊びを一緒に楽しんだほか、利用者の方からトレーニングマシンの使い方を教えていただくなど、和やかな雰囲気の中で親睦を深めました。最後には、子どもたちがダンスと心を込めたメッセージ付きの折り紙をプレゼントしました。参加者全員に笑顔が溢れ、終始あたたかく賑やかな交流の場となりました。



地域の高齢者の「強み」を実感し、顔見知りの関係を築く第一歩になった！

先生からの感想

今年は、子どもたちにさまざまな体験を通して福祉への理解を深めてほしいという思いから、多くの活動に取り組みました。特によかったと感じたのは、12月に行ったデイサービス「美健」の訪問です。利用者の方や施設のみなさんに喜んでいただき、子どもたちも大きな達成感が得られた活動だったと思います。訪問するまでに学んだ障がいについての知識や、お年寄りとの接し方を活かし、子どもたちなりに利用者の方と触れ合っている姿は私もあたたかい気持ちになりました。地域とのつながりを深めるという点からも、来年度も継続的な訪問ができるようにしたいと考えています。

春江東小学校

基本情報

クラス数 2クラス
全体人数 計56名
(1クラス人数 28名)



目的・ねらい

「ふくし」とは何かを理解し、自分が地域の一員であることを自覚する
障がいや高齢といった分野にとらわれず、地域の誰もが幸せに暮らす“地域共生社会”について考えられるようになる
また、「ふくし」は特別なものではなく、身近にあることとして感じ取れるようになることをめざす

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月11日		当事者（身体障がい）のお話
9月25日		社協によるアイマスク体験
10月9日		ボランティアグループによる点字・手話体験
10月24日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座
11月5日		社協による高齢者疑似体験
11月13日	★	当事者（視覚障がい）のお話と交流会
12月4日		当事者団体による卓球バレー体験、ボッチャ体験
1月20日		下級生に向けての福祉教育発表会



当事者（視覚障がい）のお話・交流会



アイマスク体験や点字体験で得た学びを活かし、視覚障がい者の方を招いてお話と交流会を実施しました。お話を聞いた後は、子どもたちの実行委員が中心となって遊びを企画・実施し、点字で書いたお手紙をお礼としてプレゼントしました。また、当事者の方からギター演奏の披露もあり、会場は和やかな雰囲気になりました。座学で終わらず、実践につながる貴重な経験となりました。



座学での学びから子どもの自主性を活かした実践へつながる学習になった!

先生からの感想

たくさんの出会いや体験を通して、子どもたちが「ふくし」について自分の言葉で語れるようになったことが1番の学びだと感じました。障がいのある方との交流の機会を2回設けたことで、2回目には子どもたちが主体となって、どのように関わるとよいかを考え、実践することができました。とても有意義な時間になったと思います。

また、障がいの有無に関わらず、工夫しながら人生を楽しんでいる姿を見て、子どもたち自身が自分の生き方を見つめるきっかけにもなったようです。

春江中学校

基本情報

クラス数 7クラス
全体人数 計211名
(1クラス人数 30名/31名)



目的・ねらい

福祉体験学習を通して、楽しさを入り口に「ふくし」への関心と理解を深める
障がい当事者との交流を通じて直接ふれ合う機会をもち、中学生らしい主体的な学びを育む
学習で得た気づきを、自らの行動へとつなげられる力を育てる

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月18日	★	当事者（身体障がい）によるお話と車いす体験 当事者団体による卓球バレーの体験

ワーカー
イチオシ!

当事者によるお話と車いす体験 卓球バレー体験



中学生にとって「ふくし」を身近に感じられるよう、「楽しさ」を入り口に「学び」へつなげるプログラムを企画しました。前半は障がい当事者の方にスポーツを始めたきっかけなどのご講演いただき、後半は車いす体験と卓球バレーに分かれて活動しました。車いす体験では校内のバリアフリー状況を調査し、卓球バレー体験では卓球バレーの歴史についても学ぶなど、単なる体験にとどまらず多角的に学ぶことができました。これらの活動を通して、中学生らしい探求的な学びが深まりました。



体験で終わらず「共生社会」への理解につながる一歩踏み込んだ学習
になった!

先生からの感想

ユニバーサルスポーツ体験を通して、生徒は「障がいの有無に関わらず誰もが楽しめるスポーツ」であることを身をもって実感することができました。また、車いす体験では校内のバリアフリーを確かめることで、「ふくし」をより身近に感じられるようになりました。これらの体験を通して、「ふだんのくらしの幸せ」について考えるよい機会となりました。

東十郷小学校

基本情報

クラス数 3クラス
全体人数 計 71名
(1クラス人数 23名/24名)



目的・ねらい

みんなが暮らしやすい社会にするために自分たちにできることを考え、思いやりの心を育てる

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月11日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座
9月17日		社協による高齢者疑似体験
10月1日	★	高齢者との交流
10月7日		当事者団体によるユニバーサルスポーツ体験
11月6日		当事者(視覚障がい)によるお話
11月10日		当事者団体による手話体験

ワーカー
イチオシ!

高齢者との交流



終戦から80年という節目の年に、地域のシニアクラブ(恵比寿友愛クラブ)の会員の皆さんをお招きし、生活用品や軍用品などを見せていただきながら、当時の暮らしや遊びについてお話を伺いました。物資が乏しい中でも身近なもので工夫して遊んだこと、家族や地域で助け合いながら日々を過ごしていたことなど、子どもたちは当時の暮らしに実際に触れることができました。また、平和な日常の尊さや人とのつながりを大切にする思いなど、今を生きるうえで大切にしたい価値観についても語っていただき、子どもたちにとって平和や支え合いについて考える貴重な学びの機会となりました。



今の生活が決して当たり前のものではないことを知り、平和な日常の尊さや命の大切さについて深く学ぶ機会となった!

先生からの感想

高齢者と同居していない子どもが多いなか、日常生活では関わる機会の少ない方々と交流できたことは、大きな学びとなりました。これまで当事者のことをどこか遠い存在として感じていた子どもたちも、生活の様子や価値観に触れることで、身近な存在として捉えられるようになりました。まちなかで見かけたときには、自分から声をかけてみたいという前向きな意識の変化も見られました。

大関小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計 22名
(1クラス人数 22名)



目的・ねらい

自分も相手も大切に、互いの良さを認め合ってつながる

令和7年度の実践

実施日	内容	内容
10月9日	★	社協による高齢者疑似体験/アイマスク体験
10月31日		ボランティアグループによる点字体験
11月21日		当事者団体によるフライングディスク体験
11月25日		当事者（視覚障がい）によるお話
12月2日		障がい者施設訪問・交流会

ワーカー
イチオシ!

社協によるインスタントシニア・アイマスク体験



授業参観日に、保護者に見守られながら高齢者疑似体験・アイマスク体験を行いました。慣れない環境に戸惑う姿も見られましたが、体験を通じて高齢者や視覚障がいのある方が日常で抱える困難を「感覚的に理解する」ことができました。また、子どもたちの感想に耳を傾けながら、保護者も共に学び、理解を深めようとする姿が見られ、世代を超えた学びの場となりました。その後の当事者との交流活動では、子どもたちが自ら進んで話しかける姿も見られ、当事者との心のバリアが和らいでいく様子うかがえました。



初めの体験での「感覚的に理解する」経験がとても大切な時間だったように感じます。



保護者の前で福祉教育を行ったことで家庭でも親子が「ふくし」について話し合うきっかけとなった!

先生からの感想

ふくしとは、「ふだんのくらしのしあわせづくり」だということに、最初はあまり実感が持てない様子でしたが、障がいについての調べ学習やさまざまな体験活動を通して理解が深まってきました。地域の就労支援施設を見学した際には、利用者の方と交流する機会がありました。積極的に関わる子もいれば、最初は一歩を踏み出せない子もいましたが、時間が経つにつれてお互いに慣れ、最後には一緒に楽しむことができました。振り返りでは、「障がいがあっても、いっしょに楽しむことができました」と自信をもった子が多く見られました。これからの生活の中でもこの経験をぜひ活かしてほしいと思います。

兵庫小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計9名
(1クラス人数 9名)



目的・ねらい

共に助けあい支え合うことの大切さを理解し、思いやりや奉仕の心を育てる

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
9月11日		行政による共生出前講座
9月24日		社協による赤い羽根共同募金の講座
9月26日		点字体験
10月1日		当事者団体によるフライングディスク体験
10月7日		アイマスク体験
10月17日	★	校外で赤い羽根共同募金活動
10月23日		当事者団体による卓球バレー体験
11月5日	★	校外で赤い羽根共同募金活動
11月7日		行政による心のバリアフリー教室
11月12日		学習発表会での福祉活動の発表
11月13日		認知症キャラバンメイトによる認知症サポーター養成講座
11月16日	★	校外で赤い羽根共同募金活動
12月9日		当事者団体によるゴールボール・車いすバスケット体験



赤い羽根共同募金活動



今年もPLANT2、イーザ、兵庫げんき秋祭りの3か所で募金活動を行いました。子どもたちが地域の方と直接関わる機会にもなり、活動を通じて地域とのつながりが広がりました。

今年の4年生は、三世代で関わる機会が少ない子が多かったようですが、募金活動を重ねる中で地域の方と会話を交わし、応援の言葉をもらう経験ができました。募金が地域の支えになることを学び、回数を重ねるごとに大きな声で協力を呼びかけるなど、前向きに取り組む姿が見られました。



共同募金を学ぶ中で、地域とつながるきっかけになった！

先生からの感想

学習を通じて、子どもたちはこれまで気づかなかった社会の中にある「やさしさ」に目を向けられるようになりました。学習発表会では「兵庫のやさしさみつけ隊」をテーマに、全校児童や保護者へ体験したことや学んだことを発表し、それぞれが感じたふくしの大切さを自分の言葉で伝える姿が見られました。

木部小学校

基本情報

クラス数 1クラス
全体人数 計 19名
(1クラス人数 19名)



目的・ねらい

さまざまな人の気持ちを知り、共生の大切さを理解して、思いやりの心を育む

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
7月 9日		社協による共生社会講座
10月 3日	★	高齢者との交流会
10月 24日		社協による高齢者疑似体験
11月 6日		当事者団体によるパラスポーツ体験
11月 21日		当事者（身体障がい）による車いす体験



高齢者との交流会



通いの場・サロン（木部新保ハツラツ会）の皆さんと交流し、輪投げや折り紙などの活動を一緒に体験しました。活動の中で自然と会話が生まれ、笑顔や励まし合う姿が印象的でした。楽しみながら体を動かし、人と関わり続けることが、心身の健康や生きがいにつながっていることを実感し、高齢者が元気に過ごすための秘訣を学ぶ貴重な機会となりました。地域とのつながりの大切さも改めて感じました。



交流を通して、高齢者の元気の秘訣を知ることにつながった！

先生からの感想

一年間の学習を通じて、相手の立場に立って物事を考える力が養われました。特に高齢者の方々と一緒に楽しい時間を過ごしたことで、遠い存在ではなく、身近で温かい存在であることに気づくことができました。また、困っている人に対して自分に何ができるのかを考えるきっかけとなり、「誰もが安心して暮らせる社会をつくっていきたい」という子ども達のやさしい気持ちが育まれました。

坂井中学校

基本情報

クラス数 4クラス
全体人数 計 105名
(1クラス人数 26名/27名)



目的・ねらい

福祉教育を通して思いやりの心を育て、身近な「ふくし」について学ぶことで、福祉への興味・関心を高める

令和7年度の取組み

実施日	仔細	内容
10月15日	★	地域活動者との交流会
12月10日		ボランティアグループによる点字体験 当事者団体による卓球バレー体験 シニアクラブ連合会によるスティックリング体験 企業によるフライングディスク体験



地域活動者との交流会



地域で福祉活動に取り組む方々から、どのような活動を行っているのか、またその活動に込められた思いについて話を聞き、活動を通して見えてきた地域が抱える課題を学ぶことができました。つながりの希薄化や見守りの必要性、障がいへの理解など、身近にある地域課題を具体的に知る貴重な機会となりました。さらに、大人と子どもが直接関わることで互いの顔が見える関係が生まれ、地域をより身近に感じられる関係づくりにもつながったと感じています。



活動の背景を学び、地域活動者の想いに触れることで、坂井町が抱える課題を理解することができた！

先生からの感想

生徒たちは福祉活動者の話を聞くなかで、地域にはさまざまな課題があり、その解決に向けた取り組みが行われていることを学ぶことができました。はじめは、ふくしは「障がいのある人」に関わるものというイメージを持っていたようですが、学習を通じて、誰にとっても身近で大切なものであることを理解した様子がうかがえました。また、席を譲るといった日常のささやかな行動もふくしにつながることに気づくなど、意識の変化が見られました。

